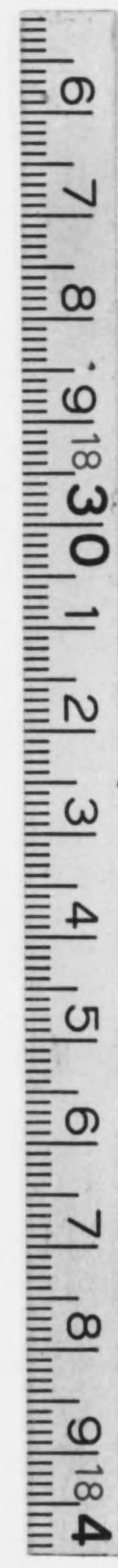


廣島商會雜誌

廣島商會雜誌

特 246
877

3



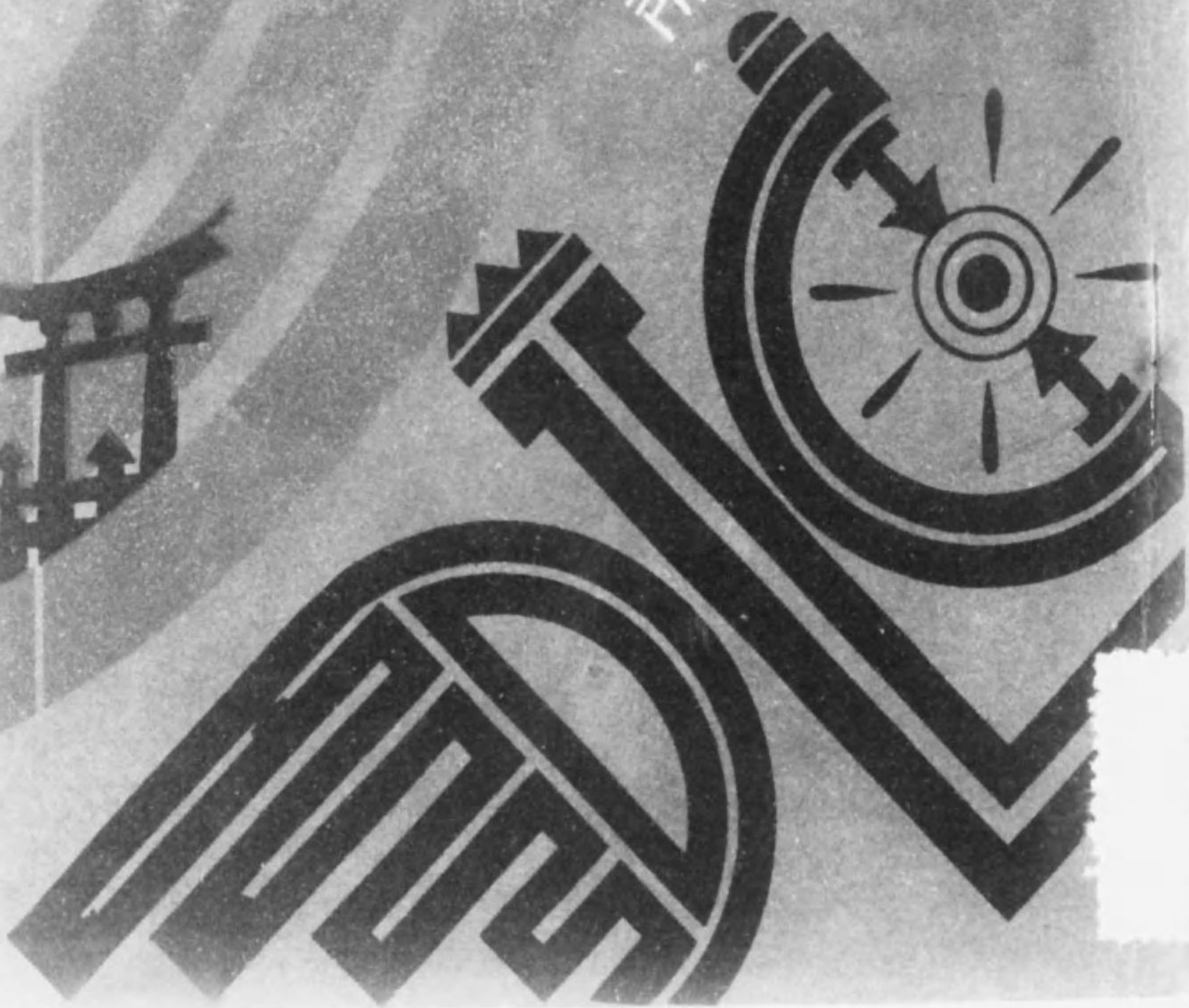
始



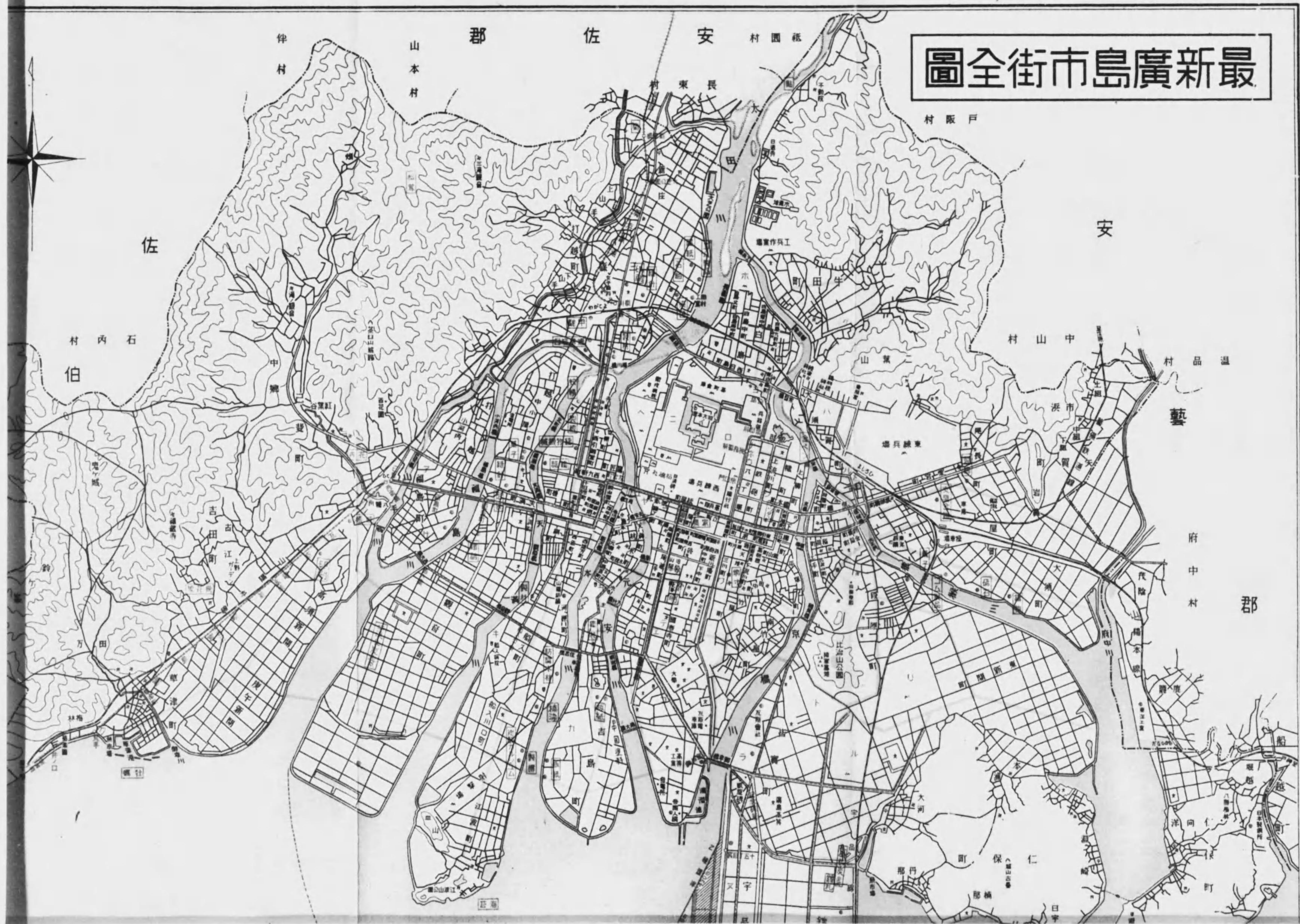
業産と島廣

877

所議會五商島廣



最新廣島市街全圖



伴村

山本村

郡 佐 安 村 園 紙

村 阪 戸

佐

安

村 丙 石
伯

村 山 中

村 品 温

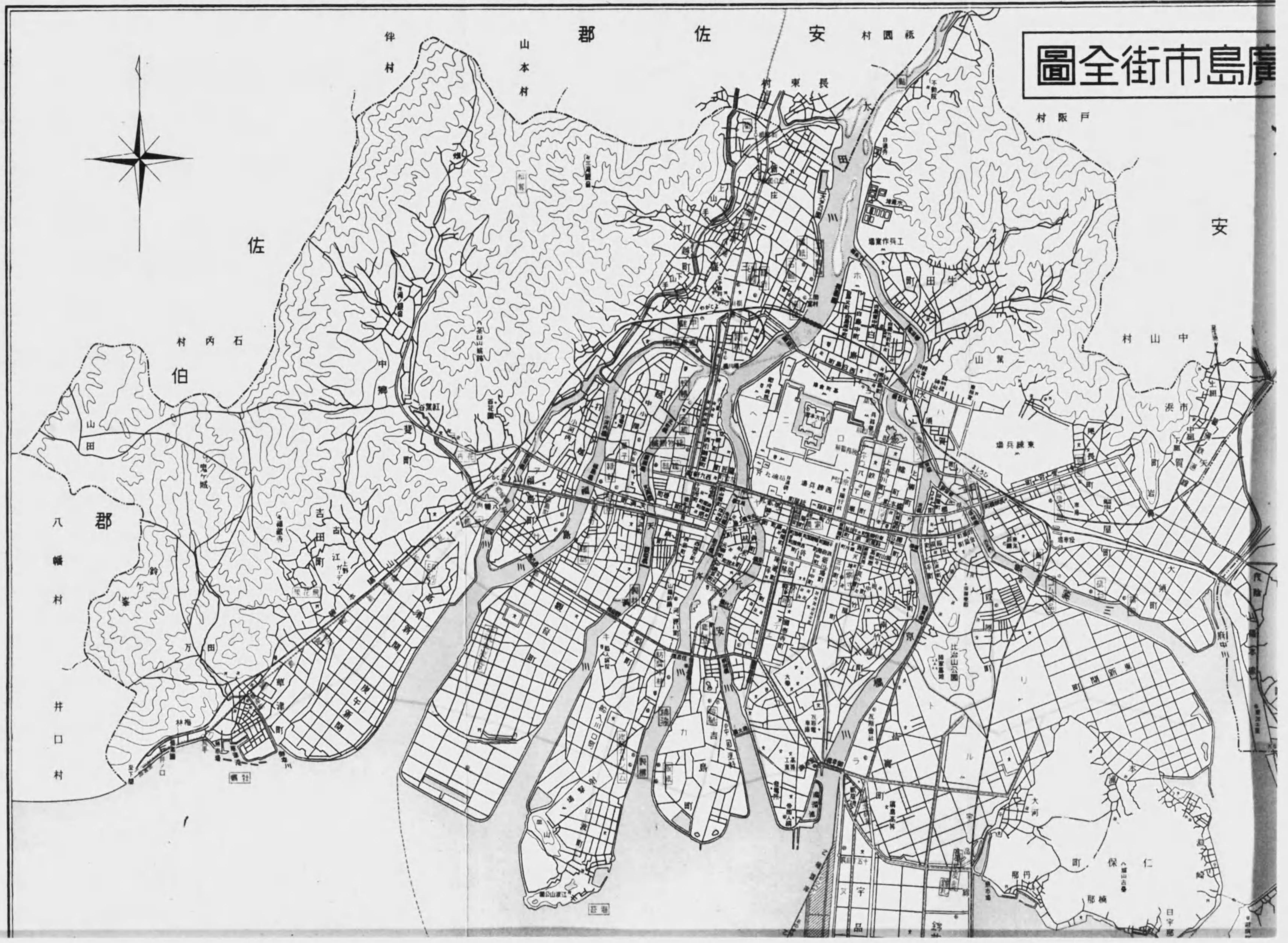
藝

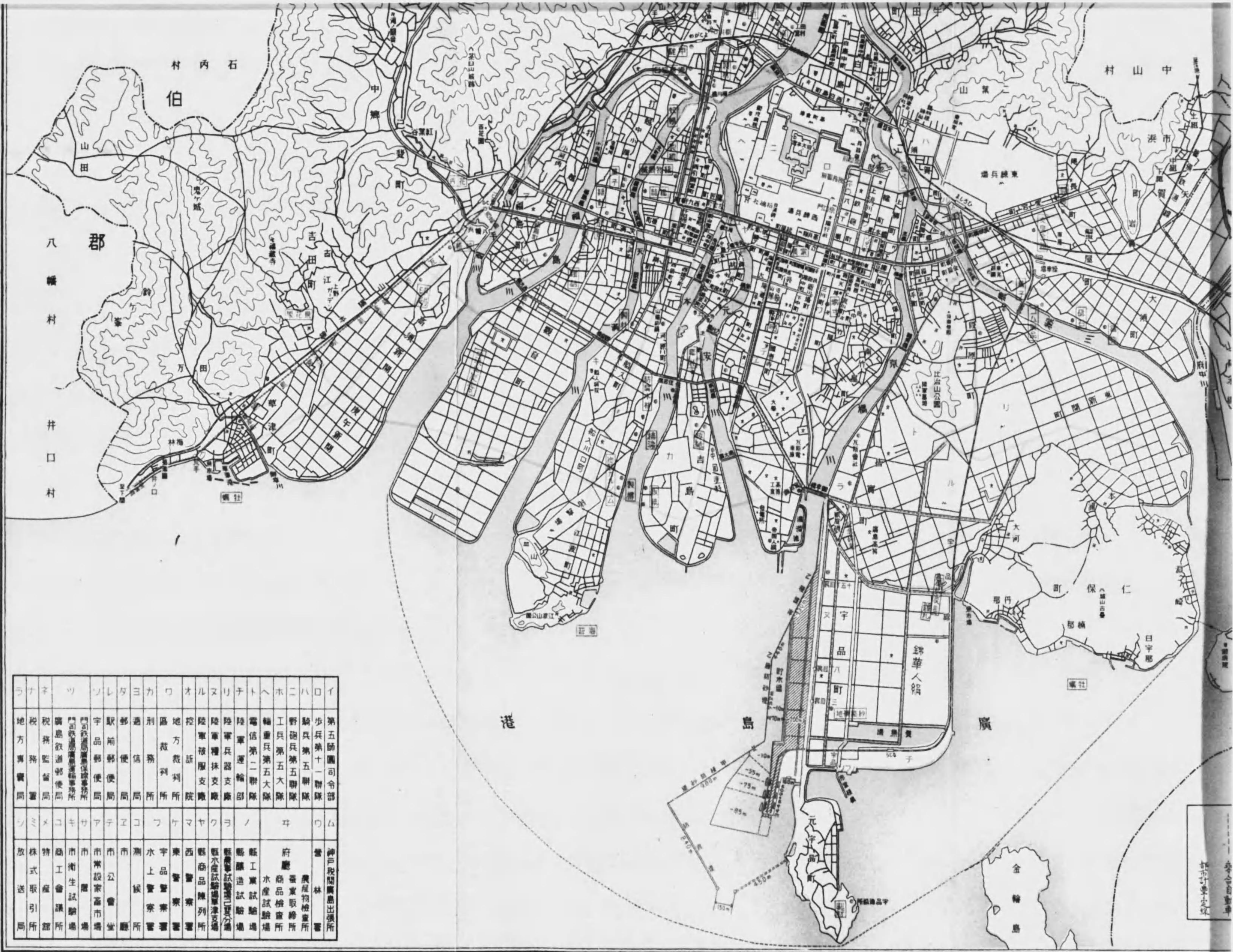
府 中 村

郡

昭和十年

廣島市街全圖





イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ル	オ	カ	タ	レ	ツ	ナ	ラ
第五師團司令部	歩兵第十一聯隊	騎兵第五聯隊	野砲兵第五聯隊	工兵第五大隊	輜重兵第五大隊	電信第一聯隊	陸軍運輸隊	陸軍兵器支隊	陸軍糧食支隊	陸軍被服支隊	地方裁判所	刑務所	逓信局	郵便局	駅前郵便局	地方事務局
イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ル	オ	カ	タ	レ	ツ	ナ	ラ
神戸税関出所	警備所	府廳	商品検査所	水産試験場	縣工業試験場	縣農産試験場	縣畜産試験場	縣水産試験場	縣畜産試験場	縣畜産試験場	縣畜産試験場	縣畜産試験場	縣畜産試験場	縣畜産試験場	縣畜産試験場	縣畜産試験場

神戸市定規
 市令自定規

廣島と産業



一	概説	二
二	鐵道及海運	四
三	河川	六
四	生産	七
五	商業	八
六	内國商業	一〇
七	外國貿易	一一
八	四圍の風光	一三
九	史蹟名勝一覽	一五
一〇		一八



廣島と産業

一、概説

中國地方の大河太田川の流水瀬戸内海に注ぐ所幾千歳の昔から、晝夜を措かず四六時中絶間なく土砂を運び、沿岸の沈降島嶼の断裂により、一雨一水の至る毎に幅員を増し堆積を加へ、造成せられたる三角洲上五方里餘の地域に擴がり、三十一萬人口を抱擁する近代都市こそは實に我廣島市である。

即廣島の地は世界的バラダイスの名にし負う瀬戸内海の一部をなす廣島灣の蒼波南面を洗ひ、内海諸島嶼を隔て、遂に四國本土と相對し、藝南の諸峰兩翼を支へ太田川下流域の沃野後方に展開し、藝北の峻嶺背面の障壁を爲し氣候温和、風光明媚、人情敦厚であつて古來天變地異の災少く、鐵道は阪神關門の中間に位し縣下及山口島根兩縣に通ずる國縣道は四通八達の自動車道路網を形成し、廣島港を基點とせる海運は内外各港に通じ、通商



廣島城

至利至便の地に當る。豊富且低廉なる電力及上水道と、恵まれたる一億六千二百有餘萬圓の産業資金に加ふるに質實勤勉なる労働者を以てし、實に企業の好適地である。夙に染織、金屬、機械器具、木工及化學工業興り園藝、水産、畜産及農産亦豊に其産額七千七百十六萬圓吞吐する處の内外商貨二百二十八萬餘噸價額二億四千五百七十二萬餘圓に達するのである。

然れども我廣島市が國際經濟場裡に乗出したるは未だほんの四半世紀以來のことに屬し、近代的港灣設備を始め水陸交通機關の充實改善は漸く其緒に就いた許りであつて、之等各般の經濟的施設が完成したる曉に於ける活躍こそ、現在軍事上に重きを爲せる以上に本邦經濟界に重要な役割を演ずべく、眠れる獅子に譬ふべき廣島市の將來こそ、蓋刮目に價するものありと期待せらるゝのである。

現在の市勢は次の如し。

(表中×印ハ昭和八年其他ハ同九年ノ數字ヲ示ス)

廣島市	人口	内國移出	内國移入	海外輸出	海外輸入	生産		×産	預	貸	手形	會社	資本					
						水産	畜産											
六九、八八〇	七八、八七〇	三一三、九四五	九一、三一五、八八〇	一四六、六六三、八三八	二、四三九、七三三	五、三〇五、九六七	四九六	一三、八四八	一八八、三九三、五六四	一、四二七、三二〇	三、四三九、九二二	三、一〇四、四九四	三二、三五七	一六二、七一〇、〇四六	七五、二〇五、三二六	二、三六、六四〇、九一六	八六〇	一八八、三九三、五六四



宮島の大島居

線、北鮮線、北海道線等の定期航路と北米、歐洲、浦塩及佛領印度支那方面に通ずる不定期寄港地である。最近一ケ年の入港船舶四萬八千七百七十一隻、登簿噸數二百七十八萬四千八百五十噸、内外出入貨物百五十三萬六千五百五十五噸、價額一億五千七百五十二萬七千七百三十九圓に達するのである。

從來の宇品港が軍事上の重要港たるは、日清及日露戰役以來周知の事實であるが、今回の滿洲及上海事變に於ても滿蒙及江南地方と最緊密なる連絡により、皇軍の活動に資し其偉力を發揮せること人のよく知る所である。尙吳軍港と指呼の間に在り軍事上最重要なる使命を有するが故に、時代の進運に伴ふべき商港設備の改善擴張が殆不可能なるより、新なる港灣修築計畫が生れ、昭和五年の廣島縣會に於て從來の宇品港の西方海面に工費三百五十萬圓を以てする廣島港修築豫算が可決せられ、引續きそれが工事計畫及起債認可申請中の處、昭和七年八月臨時港灣調査會に於て該計畫案を可とするの決定を與へられ、同年十二月舊宇品港水面を合して之を廣島港と改稱、翌昭和八年一月第二種重要港灣として選定せられ昭和八年度以降内務省直營事業として修築工事を施行せられ同十六年度完成の豫定である。



廣島停車場

二、交通

鐵道

山陽本線は市の北部を東西に走り、市内に廣島、横川、己斐の三驛あり、廣島驛よりは吳線、宇品線及藝備線が分岐し、又横川驛附近より可部町に、己斐驛附近より宮島に通ずる高速電氣鐵道がある。

藝備線は中國山間部の名邑たる三次町に於て庄原町線に連絡し、現に工事中の三新線、三江線、木次線、大社宮島線及鹽福線と連絡して裏日本と瀬戸内海とを結び付け、又廣島市より島根縣下濱田町に通ずる廣濱線は可部町を起點として起工せられ、之等各線完成の曉に於て廣島市は、中國地方鐵道網の中心地點たるべく期待せらるゝのである。

港灣及海運

舊宇品港は市の南端に位し明治二十二年十一月の完成に係はり、右に宇品島左に金輪島を控へて自然の防波堤をなし、抱擁水面積百四萬坪に達し水深く風穩であつて一萬噸級の船舶自由に出入繫泊し、青島線、大連線、臺灣線、南鮮

廣島港灣修築計畫

港口幅員六百七十米突を距て、東西の兩防波堤を築造し、港内九十七萬三千平方米突を水深七・五乃至一米突に浚渫し、三十八萬七千平方米突の埋立地中物揚場、上屋、道路及鐵道敷地に充てたる殘餘二十四萬一千平方米は、工場用地其他として適當に處分するものである。

埋立地の西南端に幅員九十米突、長二百三十五米突の繫船岸壁を築造し、其西岸に三千噸級二隻同時接岸荷役の設備を爲し、突堤の東岸及埋立地の南岸は物揚場を設け、小形汽船の荷役及木材揚卸に適せしめ浮淺橋は五百噸級四隻の同時接岸荷役の施設を爲す。

尙物揚場八棟七千平方米、貯木場水面二十三萬平方米突（木材仕別場四萬平方米突を含む）を設け又現在の宇品線を適當の地點より分岐延長して、臨港鐵道二條を敷設し、御幸橋以南の現防波堤に沿ひ幅員四十米突の道路を設けて突堤の南端に達せしめ、荷物の出入に便せしむべき計畫である。

本計畫の完成により貨物荷役能力は普通五十二萬噸、最大一百萬噸であり、又貯木場の貯木能力は二百五十萬石内外であつて、完成の日は現在の輸移出入の不便を除去せられ、廣島産業界の振興發達に資すること大なるを期待するものである。

トラツク

廣島市を中心とする自動車網の發達は、全國中罕に見る所である。従てトラツクによる荷物の出入甚だ多く就中縣道廣島松江線、廣島濱田線に沿ふもの最旺盛を極め、東西國道二號線に沿ふものに次ぎ、一日平均自動車の出入八百五十臺中トラツク約五百五十臺を占め、其積載貨物八百五十噸推定年額二十八萬二千噸に達し、廣島市内鐵道各驛取扱貨物數量の二分の一以上に當るのである。

今此れが經路を見るに北は可部町より吉田、三次、庄原方面に通じ、更に三次町を中繼として島根縣下今市、大社木次及松江方面、西北は加計、大朝に通じ新庄より島根縣下出羽、川本筋と今福、濱田筋に分る。西は岩國町を経て西北島根縣下六日市、十日市、津和野方面と、岩國より海岸線に沿ひ柳井方面に至るものと玖珂、大森を経て徳山、三田尻に通ずるものあり。三田尻より更に西下關に接続す。東及南は吳、西條、河内方面に通じて尾道市の勢力圏と相接觸するのである。

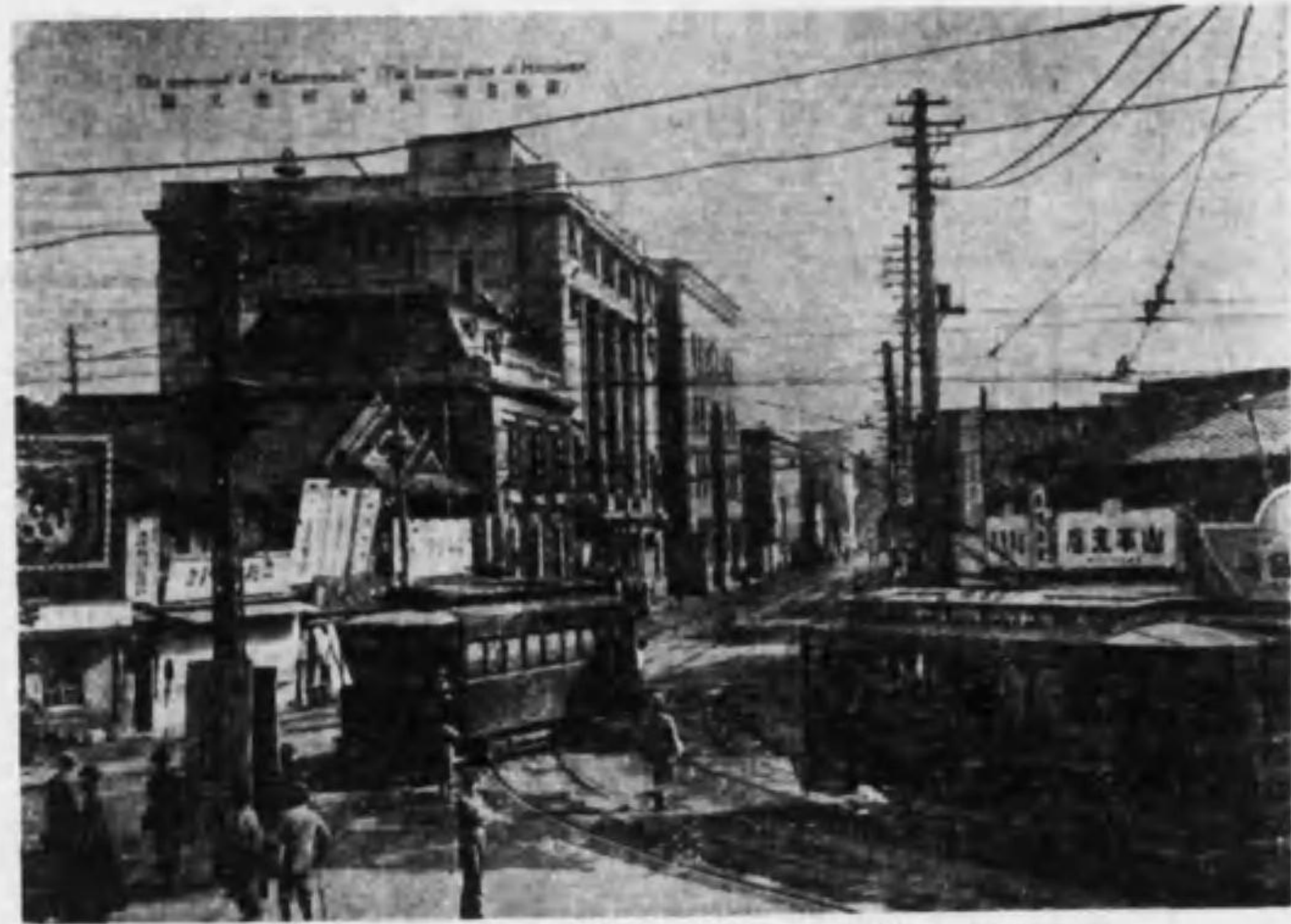
河川

市内を貫流する太田川は遠く陰陽の境に源を發し、廣島縣下西部の水を集めて廣島灣に注ぐ。其流域百二方里八、流路の延長四三八、五〇〇米突、水力發電五三、〇三〇馬力、木材の流送年額八〇八、八三六石に達し、交通經濟の發達に寄與する所少なからぬものである。

内務省に於ては昭和七年度より同二十一年度に至る十五年繼續事業として總工費一千五百九十萬圓を以て本川改修を行ふこととなり、着々既定計畫を進められ現在の市内七派川中最西端に位する山手川及福島川を利用して、大回避



太田川



紙屋町交又点より銀行街を望む

川を設け広島市を水災より解放すると共に、都市計畫事業に依る諸派川の浚渫及広島港灣の修築と相俟て、広島市内の水運上一新紀元を畫せんとするものである。

三、金 融

広島市には広島縣一圓を營業地域とする日本銀行支店があり。又土着銀行には広島縣農工銀行又広島合同貯蓄銀行の外普通銀行として藝備銀行がある。同行は大正九年七月以來縣下及愛媛縣下諸銀行を合併又は買収し、現在資本金一千八百二十萬圓、地方有数の普通銀行であつて、縣内の外岡山、山口及愛媛諸縣下樞要の地に支店出張所を有し、昭和九年十二月末現在に於て總預金一億九百八十三萬圓、總貸出四千三百三十七萬圓、有價證券六千八百八十八萬圓を抱擁するの堅實振を示して居る。其他三井、住友、三和第一、安田、川崎第百等東西一流銀行と、備南及不動貯金銀行支店あり、之等組合及組合外各銀行預金總額は一億三千三百二十五萬圓、貸出六千八百九十五萬圓に達し之に産業組合及郵便貯金等を加ふる時は預金總額一億六千二百七十一萬圓、貸出總額七千五百二十萬圓を算し横濱市に次ぎ

國內第七位を占む。内譯左表の如し。

銀行 預 金 (八年十二月末)		銀行 貸 出 (八年十二月末)	
定期預金	八七、七三五、四一三	證書貸付	二八、七四八、二七九
當座預金	七、九二三、〇〇〇	手形貸付	三一、二三二、〇〇〇
特別當座預金	一九、五四二、〇〇〇	當座貸越	五、〇三九、〇〇〇
通知預金	四、四〇二、〇〇〇	割引手形	三、九三二、〇〇〇
貯蓄預金	一二、五五一、四八七	計	六八、九五一、二七九
各種預金	一、一〇一、〇〇〇	産業組合貸付金(八年十二月末)	六、二五四、〇四七
計	一三三、二五四、九〇〇	郵便貯金(九年三月末)	一八、七四五、〇二九
産業組合貯金(八年十二月末)	一〇、七一〇、一一七	合 計	七五、二〇五、三二六
郵便貯金(九年三月末)	一六二、七一〇、〇四六		

次に本市の手形交換所は藝備、三井、住友、三和、第一、安田、川崎第百の七行と日本銀行支店及広島郵便局を加へ加盟者九である。左に最近五ヶ年の交換高を掲げん。

昭和五年	枚	金額
	三六六、八九七	二三八、三五六、五五一
		九

手形交換高

昭 和 六 年	三六一、七八〇	一八一、三八五、六八五
同 七 年	三六八、四六三	一八五、四七六、八一九
同 八 年	三七七、八九八	二二一、三八九、〇六一
同 九 年	三七六、九一六	二三六、六四〇、九一六

一〇

四、生 産

環境に恵まれたる広島地方は、明治維新前より藩主の奨励により各種の産業興り、就中清酒、醤油醸造業、山繭織、足袋、縫針、鑄物、毛筆及履物製造業等多くは此時代に萌芽を發したのであるが、維新以來領域經濟の近代經濟化に伴ひ産業組織も漸く革り、又明治二十二年宇品築港の完成と明治二十七年山陽線の開通とは、交通經濟上一新紀元を劃し、殊に明治二十七年、八年及三十七、八年戦後の企業熱により織詰、製綿、綿糸紡績、板紙、洋紙、指物及燐寸製造業等の生産工業と印刷、電氣、瓦斯、鐵道、軌道及金融業の勃興を促がしたのであるが、更に大正三年勃發した歐洲大戰の進展により世界的物資需給の變調を來し、本市の縫針、燐寸等盛に海外に新販路を開拓し、尙同戦後以來人造絹糸、護謨製品、船底塗料、化學藥品、人造砥石、コルク製品、金ペン、諸機械工具、兵器、自動自轉車及染織等の新興工業も踵を接して起り、昭和八年中の工業總生産額六千九百十五萬圓に達するのであるが尙市の周圍には岩國(人造絹糸、綿、織物)大竹(人造絹糸、和紙)廿日市(燒酎、木製品)可部(鑄物)矢野(梘)熊野(筆)吳(清酒、金ペン・萬年筆)西條、竹原(清酒)等の工業地があり、広島市を中心として所謂藝南の大工業地帯を形成するのである。主要生産品は次の如し。

工 産 品 六九、一五九、六七一圓

罐詰、菓子、清酒、醬油、漬物、清涼飲料水、蒲鉾、製綿、綿糸紡績、色木綿、捺染、洋服、蚊帳、足袋、縫針諸機械工具、鑄物、金ペン、自動自轉車、人造絹糸、護謨製品、船底塗料、化學藥品、人造砥石、板紙、和紙、印刷物、箆笥、建具、洋家具、佛壇、木履、コルク製品、防腐木材、製材、電氣、瓦斯

農 産 品 三、一〇四、四九四圓

蔬菜、果實、園藝植物 三、四三九、九二二圓

畜 産 品 三、四三九、九二二圓

牛肉、牛乳、鶏卵 一、四二七、三二〇圓

水 産 品 一、四二七、三二〇圓

海苔、牡蠣、黒鯛 七、一六三、七六四圓

五、商 業

内 國 商 業

広島市の内國商業商勢は時に一張一弛を免れなかつた



相生橋より工商會議所及産業獎勵館を望む

一一



大 本 營 跡

けれども概して順調を保持し、現在廣島港灣の後方地域とせらる、廣島縣の大部分と、島根縣下石州部及山口縣下周防部の各大半を占め、殊に大正九年神戸稅關廣島出張所設置、昭和五年の臺灣糖内地移入場設置並に近年自動車交通の發展によりて、益商勢圏の擴張を招來するに至つた。尙本市特産の縫針、罐詰、清酒、製綿、捺染綿布、鑄物、諸機械工具、人造絹糸、船底塗料、護謨製品、和洋家具、佛壇、コルク製品、自動自轉車等は全國到る處に供給せられるのであるが、地理的關係に於て中國西部、四國、九州地方を主とし更に殖民地に於ては朝鮮及臺灣に及び、益内國商業の隆昌を招來するに至つたのであつて、移出入品中主要なるもの（一ヶ年五千噸以上のもの）は、木材、石炭、鐵材、金屬製品、機械器具、穀類、窯業品、魚介類、肥料、繰綿、製綿、罐詰食料品、煙草、蔬菜、果實、和洋紙、牛馬、油脂蠟燭寸、護謨製品、藥種染料塗料、薪炭、木製品、和洋酒、綿糸、織物、砂糖食粉、菓子、味噌醬油及雜品を合し二百八萬餘噸價額二億三千七百九十七萬圓に達するのである。

内 國 品 出 入 調

(×印ハ昭和八年中其他ハ昭和九年中)

總 計	(積 荷)				(着 荷)			
	鐵	水	自	其	鐵	水	自	其
計	運×	車	他	計	運×	車	他	
一三八、〇五五 ^陸	一八、七七五、四八〇 ^四	四七四、九五六	五四、二六二、〇八四	二四三、九五一 ^陸	九一、三一五、八八〇	一六九、六〇〇	一四、二四六、三一六	
四七四、九五六	一八、七七五、四八〇 ^四	一一三、〇六六	五四、二六二、〇八四	八六一、〇九九	四、〇三二、〇〇〇	一六九、六〇〇	一四、二四六、四〇〇	
一一三、〇六六	一八、七七五、四八〇 ^四	三二、〇〇〇	四、〇三二、〇〇〇	一六九、六〇〇	九一、三一五、八八〇	五三、〇〇〇	四、四五二、〇〇〇	
三二、〇〇〇	一八、七七五、四八〇 ^四	七五八、〇七七	九一、三一五、八八〇	五三、〇〇〇	三二、四四五、四八三 ^四	一、三二七、六五〇	一四、二四六、四〇〇	
七五八、〇七七	一八、七七五、四八〇 ^四	二四三、九五一 ^陸	三二、四四五、四八三 ^四	二四三、九五一 ^陸	九一、三一五、八八〇	一、三二七、六五〇	一四、二四六、四〇〇	
二四三、九五一 ^陸	一八、七七五、四八〇 ^四	八六一、〇九九	九一、三一五、八八〇	八六一、〇九九	二四三、九五一 ^陸	一、三二七、六五〇	一四、二四六、四〇〇	
八六一、〇九九	一八、七七五、四八〇 ^四	一六九、六〇〇	一四、二四六、四〇〇	一六九、六〇〇	二四三、九五一 ^陸	一、三二七、六五〇	一四、二四六、四〇〇	
一六九、六〇〇	一八、七七五、四八〇 ^四	五三、〇〇〇	四、四五二、〇〇〇	五三、〇〇〇	二四三、九五一 ^陸	一、三二七、六五〇	一四、二四六、四〇〇	
五三、〇〇〇	一八、七七五、四八〇 ^四	一、三二七、六五〇	一四、二四六、四〇〇	一、三二七、六五〇	二四三、九五一 ^陸	一、三二七、六五〇	一四、二四六、四〇〇	
一、三二七、六五〇	一八、七七五、四八〇 ^四	二、〇八五、七二七	二、〇八五、七二七	二、〇八五、七二七	二四三、九五一 ^陸	二、〇八五、七二七	二、〇八五、七二七	
二、〇八五、七二七	一八、七七五、四八〇 ^四				二四三、九五一 ^陸			

外 國 貿 易

廣島港は内外通商港として優秀の地位を占むるのであるが、軍事上の重要港たる關係上開港々則の適用を受くるに至らず、本市の輸出入は阪神若は關門を經由するの已むなき状態にあつたのであるが、大正九

年十月臨港地帯に保税地域の設定を特許せられ、神戸税關出張所を設けられ、我國に船籍を有する外國貿易船の出入を特設せらるゝに至り、其輸出入貨物は次第に増加し、殊に這般の滿洲事變に引續き滿洲新國家の建設により、同方面に對する輸出貿易の増進は誠に著しきものがある。最近五ヶ年間の貿易額は次の如し。

主要輸出入品一覽

年	輸 出		輸 入		合 計
	出	入	出	入	
昭和五年	三、七三、五〇七 ^四	四、〇一八、五三八 ^四	四、三九二、〇四五 ^四		
同 六 年	三、三二、八四七	三、一五一、四七二	三、四八四、三一九		
同 七 年	六〇五、八七七	二、七九八、七三〇	三、四〇四、六〇七		
同 八 年	一、六二四、三二三	四、三二九、〇二九	五、九五三、三五二		
同 九 年	二、四三九、七三三	五、三〇五、九六七	七、七四五、七〇〇		

尙本市の對外貿易は前述の如く地元港灣が不開港なるが爲め、外國に船籍を有する貿易船の入港を許されざると、航路關係其他により阪神若は關門積替へ、若は該地貿易業者の手を経るもの甚だ多く、鹽乾魚、罐詰、製綿、各種織物、人造絹糸、縫針、萬年筆、護謨製品、履物及附屬品、毛皮、菓子、柑橘其他の輸出入約四百六十萬圓、澱粉、牛肉、皮革、石油、揮發油、機械油、肥料、生護謨、藥品、原綿、ラミー洋服地、バルブ、鋳力板、鐵材、自動車及同部分品、諸機械、木材其他の輸入約八百萬圓に垂んたるものあり。

廣島市及附近の地は山光水色共に佳き一大樂天郷である。即其南面を瀬戸内海の暖流によりて洗はれ、中國山脈の峻嶺朔風を遮ぎり、氣候温和に風雨時を得、加ふるに天下の景勝此境域に蒐まれるの觀がある。即陰陽の境に源を發せる幾多の細流は、集まりて、深淵となり飛瀑となり東に帝釋峽、西に三段峽を始め瀧山、天徳及南原の諸峽を作る。其水の合流する所安藝ラインとなり廻々として内海に注ぎ、三角洲上廣島の市街を建設す。市の中央屹然として聳ゆるもの即國寶廣島城天守閣であつて、三百四十年の昔中國十三州に號令したる巨豪毛利氏の築城に係り、福島淺野の兩藩相次いで居城したる所である。又天守閣の南麓老松櫻樹參差たる中に隠見する白壁は即大本營の史蹟であつて、明治二十七年、八年の役、明治大帝親しく征清の軍を統督し給ひ、因て以て空前の大勝を博し大帝國建設の基礎を

六、四圍の風光

あり。廣島港に於ける輸出入と合し殆二千萬圓に達するのであつて、之等の大部分は將來廣島港灣の修築により漸次直接輸出入の道を開かるべきを豫想せらるゝのである。



淺野泉邸



結構莊嚴廣島の靖國神社と稱せらるゝものである。臥虎山上の御便殿は明治大帝第七回臨時帝國議會に臨御されましたる御座所を奉祀せる所、同戰役以來屢外征皇軍の發動地點として、其名

定め給ひし聖蹟であり、又西練兵場西方に鎮座せる木の香も新しき新營の官祭廣島招魂社は西南の役を始め、日清、北清、日露及日獨戰役や今回の滿洲及上海事變等の戰死病沒者三千二百有餘柱の英靈を合祀せる所であつて、



三段 峽 (三段滝)



(上) 廣島招魂社
(下) 帝 釋 峽



高き宇品港と共に大帝の偉業を偲び、我國史に絢爛たる光輝を放つものである。舊藩主淺野老侯の祖先が支那西湖の景に模し築造せる別墅泉邸は、池水の布置妙を極め深山幽谷の景趣稀に見る所である。頼山陽舊宅趾は明治維新の風雲を捲き起す原動力となつた日本外史の著述に心血を濺いだ所である。瀬戸内海の蒼波に浮ぶ繪の嚴島は戰國の史跡として、將又名勝として日本三景の隨一を爲し、錦川に架せる岩國の錦帶橋

は天下三奇橋の一として共に其名人口に膾炙する所である。其他中國第一の大河江川の各支流相合する盆地三次町の櫻、平相國の開鑿せる隱戸海峽の急潮亦著はる。我國寶の大半を藏する大山祇神社の鎮座せる大三島を始め、沿岸及内海諸島嶼は獨り其風光の明

媚を以て誇るに足るのみならず、神功皇后の征韓、三韓の朝貢、元寇及豊太閤征韓の水師、並に和寇の根據地として幾多の史實を留め、名僧空海の建立により安藝高野の別稱ある福王寺、臨濟の總本山佛通寺及本願寺廣島別院等歴史ある大伽藍も亦少からず。俗塵を離れて古人と語り、大自然に親しむべき史蹟名勝枚舉に遑なく風景園日本的一大縮圖たるの觀がある。
 尙春は花と潮干狩、夏は河海の游浴と舟遊によく秋は井狩りに冬は狩獵に將又スキーに好適の地少からず、四季トリム\の行樂盡きせぬものがある。

史蹟名勝一覽

廣島市内

最寄停留所	距離		賃金	備考
	廣島驛	廣島港(宇品驛)		
大本營跡	0.33	1.30		
廣島城趾	0.33	1.30		
廣島招魂社	0.35	1.17		
泉邸	0.09	1.10		

廣島市内
 電車五錢均一
 バス七錢均一
 ハイヤー
 二哩半迄七十錢
 以上四分一哩每
 二十錢増

御便殿	電車 稻荷町	0.17	1.05	1.10	1.05
比治山公園	電車 御便殿	0.23	0.20	1.18	1.25
饒津公園	電車 饒津前	0.23	1.18	1.25	
江波山公園	電車 江波町	1.18	1.13	1.00	1.25
宇品山	電車 宇品三丁目 御幸松麓	1.13	1.15	1.00	0.08
已斐花卉盆栽園	電車 已斐終點 附近迄	1.16	1.10	驛附近	1.30
本願寺廣島別院	電車 別院前	1.03	0.05	1.05	1.10
國泰寺	電車 白神社前	0.25	0.08	0.00	1.05
頼山陽舊宅趾	電車 袋町 門前	0.24	0.27	0.29	1.06

廣島市外

最寄驛所	港灣	起點	距離	賃金	備考
佛通寺	山陽線本郷驛	廣島	六・九	四錢 九七	本郷驛ヨリ約二里自動車便アリ
福王寺	省營バス福王寺前	廣島川島	一・九〇	六〇	
	廣濱線可部驛	廣濱線可部驛	二・〇〇	四五	
	廣濱線可部驛	廣濱線可部驛	一・三・八	三三	可部驛ヨリ約一里半自動車便アリ
安藝ライン	省營バス可部驛	廣濱線可部驛	一・四・〇	四五	
	廣濱線可部驛	廣濱線可部驛	一・三・八	三三	探勝發船地點ニヨリ船賃ヲ異ニス 廣島迄一隻三四乃至十圓
郡山城跡	加久計地町村	廣島市内ヨリ白	七・〇〇	八〇	
	久地村	廣島市内ヨリ白	一・〇・五	六〇	
尾關山公園	藝備線吉田口驛	廣島	四・九・二	一・二〇	吉田口驛ヨリ約一里（乗合自動車 連絡賃金ヲ含ム）
	同 三次驛	同	七・一〇	一・七〇	三次驛ヨリ約二十町自動車便アリ
帝釋峽	庄原線備後庄原驛	同	九・〇五	二・三二	備後庄原驛ヨリ約五里 鐵道自動車連絡往復四圓五十錢
	南口	廣島市内ヨリ白	一・六・〇〇	二・〇〇	往復二圓八十錢（柴木樽床間片道 連絡自動車賃ヲ含ム）
	奥口	同	二・〇・〇〇	一・六〇	加計町ヨリ峽谷入口迄約一里自動 車便アリ
三段峽	加計町	同	一・一・〇五	一・六〇	
瀧山峽	久地村	廣島市内ヨリ白	八・〇〇	九〇	
天德峽	賀	同			

最寄驛所	港灣	起點	距離	賃金	備考
南原峽	廣濱線可部驛	廣濱線横川驛	一・三・八	六三	可部驛ヨリ約一里半自動車賃一圓
速谷神社	山陽線廿日市驛	西廣島	二・〇・〇	六〇	廿日市驛ヨリ約五町自動車便アリ
	鐵道嚴島棧橋	西廣島	二・三	三七	
	宮島線嚴島橋	西廣島	二・〇	三五	
	嚴島連絡船	廣島	九・〇	三五	往復鐵道電車共ニ七十四錢
	河原	廣島	九・〇	二八	
	吳	廣島	二・六・四	四三	
	江田	廣島	七・五	三〇	
	音戸	廣島	一・三・〇	三五	
	倉橋本浦	同	一・七・二	七〇	
	御手洗	同	二・六・〇	一四〇	
	竹原	同	三・五	九〇	
	忠海	同	三・五	一〇〇	
	大島	同	三・五	一四〇	

昭和十年四月三十日印刷
昭和十年五月三日發行

【非賣品】

發行者

廣島市猿樂町十四、十五、十六番地
廣島商工會議所

印刷者

廣島市大手町七丁目一番地
株式會社 增田兄弟活版所

終

